

地域企業と連携した次代の京都の担い手育成事業 年次報告書



2024年度京都市総合企画局総合政策室委託事業



目次

I.事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.2

II.活動概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・p.3

III.プロジェクト紹介・・・・・・・・・・・・・・・・p.6

①イオンモール京都五条～店舗課題を解決するアイデアブレストワークショップ～
（イオンモール株式会社、イオンモール京都五条同友店会）

②もっと住みたくなる未来の学生マンションプロジェクト
（連携企業：株式会社ジェイ・エス・ビー）

③将服万来プロジェクトTeam -影-
（連携企業：株式会社ヒューマンフォーラム、株式会社京都紋付、株式会社アーバンリサーチ）

④千数百年の伝統文化・木造建築技術を後世に繋ぐ宮大工集団「匠弘堂」へ工房見学プログラム！
（連携企業：有限会社匠弘堂）

⑤「食の未来を創る技術に触れる。」イシダ企業訪問プログラム
（連携企業：株式会社イシダ）

⑥伝統を尊び京都への想いを込めて作られたクラフトジン（季の美）の蒸溜所へ訪問！
（連携企業：株式会社京都蒸溜所）

⑦本がつなぐ学生ブックフェアプロジェクト
（連携企業：株式会社大垣書店、藤原製本株式会社）

⑧映画・テレビの“あのシーン”を支える！高津商会 企業訪問プログラム
（連携企業：株式会社高津商会）

⑨途上国から世界へ届ける、モノづくりの真実！マザーハウス企業訪問プログラム
（連携企業：株式会社マザーハウス）

⑩京都未来共創ゼミ～京都の未来を創るサードプレイス～
（通年プロジェクト）

I.事業概要

「地域企業と連携した次代の京都の担い手育成事業」

1.背景

本市では、「行財政計画2021-2025」における「都市の成長戦略」として、「若い世代に選ばれる千年都市」をはじめ、5つの都市デザインを掲げ、京都で学ぶ留学生を含む学生（以下、「学生」という。）を対象に京都への愛着や関心を醸成する各種の取組を通じ、京都を愛する京都ファンの確保、さらには学生の市内での定住促進・次代の京都の担い手育成という好循環につながる都市を目指している。

この一環として、「大学のまち・学生のまち京都」の大学・短期大学等で学んでいる学生が、就職活動前の早い段階から京都市内に本社や支店を有する多様な地域企業（以下、「地域企業」という。）と出会うきっかけづくりの機会の提供を通じ、学生に地域企業が持つ特色や強み（オリジナルの付加価値）への興味・関心を持ってもらうとともに、将来的な京都での就職・定住につながる気運の醸成を図るものである。

2.趣旨・目的

大学や国籍の枠を超えた留学生を含む学生を、グローバルな視点と地域（ローカル）の発展を支える情熱を併せ持った「グローカル人財」（注1）として育成するとともに、学生と企業がお互いを知る機会を創出することを目的とする。具体的には、多様な主体からなる学生チームによる、京都企業との骨太な連携プロジェクト（PBL型）（注2）と、普段触れることができない地域企業の取組みや魅力に触れる機会として企業訪問を実施する。

- ① グローカル人財の育成
- ② 学生と企業の出会いの機会創出
- ③ 学生へのグローバルかつ実践的な協働経験の創出

（注1）グローカル人財：グローバルな視点と地域（ローカル）の発展を支える情熱を併せ持つ人財

（注2）PBL:アクティブラーニングに位置づけられる実践的教育手法
Project Based Learning（課題解決型学習）

II.活動概要

■概要

地域企業と連携した次代の京都の担い手育成事業を受託した、特定非営利活動法人グローバル人材開発センター（以下、略称：グローバルセンター）が、企業と連携したPBL（課題解決型学習）型プロジェクトの開発・運営と地域企業と学生の出会いの場としての企業訪問プログラムの企画・運営を行った。地域企業の関心や抱えている課題をテーマに設定し、企業とグローバルセンターがともにプロジェクト化を行い、大学の垣根を越えた学生の混合チームで取り組んだ。チームは留学生を含む大学生・大学院生による5～10名程度のチームで構成されており、学生はプロジェクトを通じて、社会における実践的な力を養い、連携企業についての知識はもちろんのこと「働く」や「仕事」について深く学び、考えるマインドを身に付けた。

プロジェクト開始時に地域企業に関するレクチャーを実施し、企業を見る目を養い、日々の企業との連携から地域企業の魅力を体感し、地域企業の魅力を知る機会が創出されるよう、プロジェクトの設計を行った。

これからの社会と企業活動はますますグローバル化し、かつボーダレス化していく。本事業では、こうした将来の社会を見据え、学生時代から、多様な文化的背景・社会的背景を持つ主体から構成される集団において、リーダーシップ・フォロワーシップの経験を積むことができるよう、プロジェクトの開発・運営を進めた。

企業訪問プログラムでは、学生は企業の現場を見学することで、地域企業と実社会との接点をイメージできるよう、普段見ることができない企業の裏側や地域企業のこだわり・強みに触れる訪問内容の設計・運営を行った。加えて、対話をベースとしたワークショップを実施することで、見学で体験した内容をより深い気づきや学びとして内面化できるよう企画した。また、ワークショップではコーディネーターが学生と企業人の仲介を行い、参加者全員に発話の機会を設け、両者の細かなニーズを満たす工夫を行った。

★2024年度＜参加人数・プロジェクト数＞

○ 参加学生 (注1、2)

78 人 → 日本人学生 76 人
留学生 2 人

○ 実施プロジェクト数 (注3)

10 プロジェクト

★11年間（2013～2024年度）の実績

○ 参加学生

685 人 → 日本人学生 580人
留学生 118人

○ 実施プロジェクト数

111 プロジェクト

- (注1) 2024年度より、課題解決プロジェクトと企業訪問プログラムが統一され、これにより従来の2本軸（課題解決プロジェクトと交流会・企業訪問プログラム）は一つの事業として運営されることとなった。したがって、2023年度までの課題解決型プロジェクト以外の企業訪問プログラムや交流会の参加者数は、本年度における累計実績に含まない。なお、2023年度までの課題解決プロジェクトの参加者合計は607人である。
- (注2) 本年度プロジェクト参加者数は課題解決プロジェクトと企業訪問プログラムの参加者数を合計した数字。
- (注3) 2024年度に実施した京都未来共創ゼミは複数社連携したが、1プロジェクトとして集計。

過去参加学生の所属大学一覧（大学コンソーシアム京都加盟校）

※プロジェクト・企業訪問プログラム含む（順不同）

【大学】

・大谷大学
・京都大学
・京都教育大学
・京都先端科学大学
・京都外国語大学
・京都工芸繊維大学
・京都産業大学
・京都情報大学院大学
・京都女子大学
・京都精華大学
・京都芸術大学
・京都光華女子大学

・京都美術工芸大学
・京都橘大学
・京都府立大学
・京都文教大学
・花園大学
・同志社大学
・同志社女子大学
・佛教大学
・龍谷大学
・立命館大学
・京都経済短期大学
・京都外国語短期大学
・平安女学院大学

・京都ノートルダム女子大学
・嵯峨美術大学
・嵯峨美術短期大学
・放送大学

【大学院】

・京都大学大学院
・京都芸術大学大学院
・京都産業大学大学院
・京都府立大学大学院
・立命館大学大学院
・京都工芸繊維大学大学院

29 大学

6 大学院

PJ連携・協力先＜企業・団体＞（順不同）

※本年度連携企業 [青字](#) 記載。
当事業は11年目となる。

コミュニティバンク京信（京都信用金庫）
株式会社ケービデバイス
株式会社ブリッジコーポレーション
和晃技研株式会社
京都高度技研研究所（ASTEM）
京都朱雀ロータリークラブ
NPO法人クリエイター育成協会
株式会社MIYAKO
株式会社太鼓センター
都タクシー株式会社
[株式会社大垣書店](#)
岩井木材株式会社
株式会社リーフ パブリケーションズ
株式会社CRETARIA
株式会社特殊高所技術
株式会社レドネスタ
京都観光オープンデータ協議会
有限会社中小企業診断所エス・ピー・シー
日新電機株式会社
株式会社丸嘉
西垣金属工業株式会社
東邦電気産業株式会社
生田グローバル株式会社
叡山電鉄株式会社
株式会社フラットエージェンシー
株式会社フーズジャパン
佐々木酒造株式会社
京都オスカークラブ
株式会社ドレスクリエイト
NPO法人 OUEEN JAPAN
株式会社三笑堂
株式会社ビジネスプラスサポート
株式会社エクスクラメーションスタイル

株式会社メディアエージェンシー
株式会社フジタ
株式会社川勝總本家
株式会社キヤミー
株式会社worldlink & company
株式会社世代継承活学社
増田産業有限会社
[株式会社ヒューマンフォーラム](#)
株式会社OPA
株式会社ライフ住宅販売
株式会社タナベ
株式会社伴戸商店
株式会社大東技研
株式会社陶あん
株式会社誉勤商店
株式会社サン食品
西南ロータリークラブ
堀川と堀川通りを美しくする会
京都中小企業家同友会
株式会社ジュー
京料理 二傳
株式会社坂製作所
株式会社クレバー
三浦仏像彫刻所
丸太町地区飲食店9店舗
株式会社たまゆら
株式会社アグティ
一般社団法人京都試作ネット
株式会社意匠京念珠板倉
株式会社きたやま南山
株式会社Q's

株式会社カケザン
株式会社福寿園
株式会社西浅
[株式会社イシダ](#)
菅原精機株式会社
洛西紙工株式会社
有限会社中村ロソク
株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所
株式会社サーカスコーヒー
株式会社ニッセン
株式会社アグオル
合同会社津田樓
株式会社カネ七畠山製茶
洛西紙工株式会社
吉村織物株式会社
TOPPAN株式会社 京都営業所
招徳酒造株式会社
[株式会社アーバンリサーチ](#)
[株式会社京都紋付](#)
[イオンモール株式会社](#)
[イオンモール京都五条同友店会](#)
[株式会社ジェイ・エス・ビー](#)
[有限会社匠弘堂](#)
[株式会社京都蒸溜所](#)
[株式会社マザーハウス](#)
[藤原製本株式会社](#)
[株式会社高津商店](#)

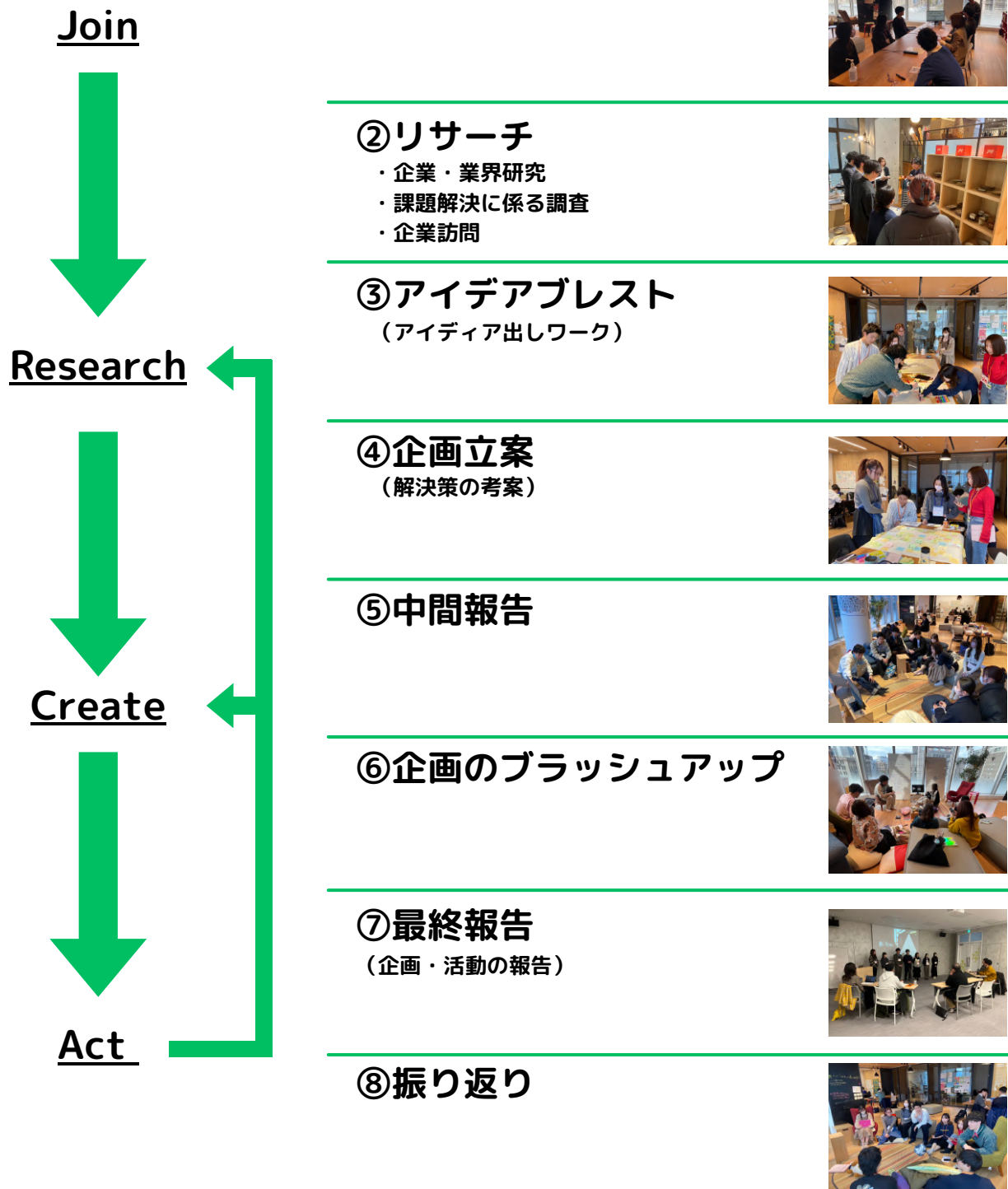
94 企業・団体

III.プロジェクト紹介

	プロジェクト名	連携企業
 	①イオンモール京都五条 ～店舗課題を解決するアイデアブレスト ワークショップ～	イオンモール株式会社 イオンモール京都五条同友店会
	②もっと住みたくなる 未来の学生マンションプロジェクト	株式会社 ジェイ・エス・ビー
	③将服万来プロジェクト Team -影-	株式会社ヒューマンフォーラム 株式会社京都紋付 株式会社アーバンリサーチ
	④千数百年の伝統文化・木造建築技術を 後世に繋ぐ宮大工集団「匠弘堂」へ 工房見学プログラム！	有限会社匠弘堂
	⑤「食の未来を創る技術に触れる。」 イシダ企業訪問プログラム	株式会社イシダ
	⑥伝統を尊び京都への想いを込めて作られた クラフトジン（季の美）の蒸溜所へ訪問！	株式会社京都蒸溜所
	⑦本がつなぐ 学生ブックフェアプロジェクト	株式会社大垣書店 藤原製本株式会社
	⑧映画・テレビの“あのシーン”を支える！ 高津商会 企業訪問プログラム	株式会社高津商会
	⑨途上国から世界へ届ける モノづくりの真実！ マザーハウス企業訪問プログラム	株式会社マザーハウス
	⑩京都未来共創ゼミ ～京都の未来を創るサードプレイス～	通年プロジェクト

<課題解決型プロジェクトの流れ>

下記の流れで課題解決を実施。進捗段階に応じて試行錯誤し、実践しては前過程に立ち戻ることを繰り返し、企業の魅力や特徴を活かした実現可能性の高い成果物の作成を目指した。本事業では、短期・中長期でも同じ流れをベースにプロジェクトの設計・運営を進めた。



①イオンモール京都五条 ～店舗課題を解決するアイデアブレスト ワークショップ～

連携企業：イオンモール株式会社、イオンモール京都五条同友店会

AEON MALL
イオンモール京都五条



■実施時期

2024年7月3日

■参加者 合計：6名

立命館大学（1名）

京都産業大学（2名）

佛教大学（1名）

京都芸術大学（1名）

京都橘大学（1名）

■学生への課題

企業の魅力や課題を学生視点で発見し、企業のリソースを生かして社会課題解決のアイデアを提案せよ！



■概要

イオンモール京都五条に入店する店舗担当者の方から各店舗の取組や課題感をお聞きし、カヤック式ブレインストーミングを活用したワークショップを実施し、店舗担当者の方と共に、店舗課題の解決に向けたアイデア出しを行った。ワークショップの最後には、店舗担当者のみなさんに対して、参加学生がアイデアの提案を行った。

■プロジェクトの結果・学生の学び

イオンモール京都五条に入居する書店、アパレル、食品などの4店舗の店長に参加いただき、店舗課題解決をテーマとしたPBL（課題解決型学習）を実施した。

学生たちは、店舗の見学や各店長へのヒアリングを通じて企業の取り組み内容に触れた。また、ブレインストーミングのコツに関するレクチャーを受け、アイデア出しの技法を学んだ。その後、「①参加者が訪れたいくなる店舗とは？」「②複合型施設（イオンモール京都五条）だからこそできる地域共創の取り組みとは？」という2つのテーマに分かれて解決策の提案を行った。

提案内容には、京都や五条という店舗の立地に着目し、五条大橋に伝わる武蔵坊弁慶の伝説を活かした独自性のあるイベントや、入居店舗が提供する飲食と共に映画やスポーツのパブリックビューイングを企画するなどが含まれていた。これらの提案は「実現可能なもの」と「実現は難しいがインパクトが大きいもの」として分類され、単なる若者目線のアイデアに留まらず、企業の視点を意識して考案された。

学生からは、「普段気にしなかったことや、自分では考えつかないことを多く知り、こんな考え方ができるのだと学んだ」「自分がやりたいことでも、店舗側の立場から考えてみることの重要性を感じた。この経験は貴重だった」という振り返りがあった。

また、参加した店長からは「学生たちが柔軟な発想で考えてくれるのが素晴らしかった。いつか彼らが考えたことを実現できるよう努力したい」

「普段、アルバイトの大学生と働く機会はあるが、じっくりと意見を交わす機会がなかった。今日は学生の考えが素晴らしいと感じた。今回のアイデアを企業でも取り入れ、またこのような機会を設けてほしい。学んだことを活かし、お客様に満足いただける営業を心がけたい」との声が寄せられた。

②もっと住みたくなる 未来の学生マンションプロジェクト

連携企業：株式会社ジェイ・エス・ビー

 学生マンションから、共生創造企業へ。
株式会社ジェイ・エス・ビー
ジェイ・エス・ビーグループ



■実施時期

2024年9月25日

■参加者 合計：5名

立命館大学（2名）

龍谷大学（1名）

同志社大学（1名）

佛教大学（1名）

■学生への課題

企業の魅力や課題を学生視点で発見し、企業のリソースを生かして新たな学生マンションの在り方を提案せよ！



■概要

創業以来『学生に安全で良好な就学環境を提供することが使命』という信念のもと、学生マンション分野で大きな実績を積み上げてきた株式会社ジェイ・エス・ビーのリソースを活用した、「もっと住みたくなる未来の学生マンション」について学生目線で考え、担当者に提案を行った。

■プロジェクトの結果・学生の学び

株式会社ジェイ・エス・ビーの協力のもと、「もっと住みたくなる未来の学生マンション」をテーマに「こんなマンションがあったらいいな」と、自由な発想から数多くの提案を行った。

前半ではアイデアを多く出すことに集中し、後半ではアイデアをもとに「①ラジオでの発信班」と「②居住者交流×イベント班」の2グループに分かれ、企業が実現するメリットや効果を考えながらアイデアを具体化した。

①ラジオ班は、ジェイ・エス・ビーが全国に学生マンションを展開していることを活用し、京都に限らず、各地域の学生によるラジオを活用した情報交換や魅力発信を提案した。ラジオという形式を用いることで、参加を強制するのではなく関心のある入居学生だけに適度な距離感で関われることを推した。また、マンションの学生が取材を担当することで、個々の成長機会にもつながるという提案であった。

②入居学生交流×イベント班は、大学の低学年次における履修や講義、大学文化の理解不足による不安を解消するため、複数学年で交流する提案を進めた。「高学年次の学生が参加するメリットをどう提示するか」というフィードバックに対し、学生たちは地元の食材を使った料理勉強会を企画し、地域のことや食について学べる交流イベントと組み合わせ、学生や地域住民が楽しみながら交流できる提案を行った。

企業担当者からは、「色々な企画を考えてきたが、いつも会社側が与えてばかりで、学生たちがやりたいことを叶えられていなかったのかもしれない。学生が輝ける、楽しめる場所の提供はできているが、今後は学生たちが主体的に動ける場所を作って行きたい」とのコメントをいただいた。

学生は「学生マンションの企画開発・営業やメンテナンスだけでなく、学生交流の場づくりなど、一般的な不動産業だけでなく学生に寄り添った幅広い活動に取り組んでいることについて学べた」と振り返った。

ジェイ・エス・ビー
▼プレスリリース▼



③将服万来プロジェクト

Team -影-

連携企業：株式会社ヒューマンフォーラム、株式会社京都紋付、
株式会社アーバンリサーチ



■実施時期

2024年9月～11月

■参加者 合計：5名

京都女子大学（4名）

佛教大学（1名）

■学生への課題

「着倒れの街京都」だからこそできる、サステナビリティ（公益性と収益性）を実現するためのアパレル業界ムーブメントを提案せよ！



■概要

前年度に「将来世代と服の未来を考える～将・服・万・来プロジェクト～」として、京都に所在するアパレル企業3社と連携し、課題解決を実施した。そこでは、回収した古着で、店頭で再販できないような服を「染め替え」などの取組みを行うことで、新品を買うのではなく古着を活用することの大切さを若者たちに伝えられるようなブランドの提案を行った。そしてその提案をもとに、2024年4月7日に京都梅小路公園にて実施された循環フェス連携企業からのサポートのもと独自ブランドとして出店し多くの方にご訪問いただいた。

このプロジェクトでは、上記の取組みの第2弾として、実施した内容をアップデートし、11月3日に開催された循環フェスに出店した。

■プロジェクトの結果・学生の学び

準備段階では、取組みを伝え、購入を促すためのターゲット層を明確にし、価格帯の設定を工夫することで、顧客に染め替えの重要性を意識してもらえる商品を選定した。

前回の出店で課題となった「染め替えの重要性を伝えきれなかった点」を意識し、新メンバーと過去参加メンバーが協力して、通行する顧客に足を止めてもらうことや話を聞いて取組に共感をしてもらえるような配布物や伝え方に工夫を凝らし、イベント中も状況に応じて軌道修正を行いながら販売を進めた。その結果、昨年度を上回る染め替え件数を達成し、売上も黒字化した。また、プロジェクト参加学生のうち2名がトークセッションに登壇し、企業の方々とサステナビリティについて話し合いを行う貴重な機会を得た。

トークセッションでは、株式会社アーバンリサーチのシニアチーフ・宮氏、立命館大学potential代表・速水氏とともに「アーバンリサーチとサステナビリティについて考える」というテーマで議論を行った。学生視点でのファッションに対する考えに加え、ファッションに限らずサステナビリティに繋がる個々のアクションや意識についても議論を深めた。これにより、それぞれの個人の活動が社会に与える影響の重要性について学んだ。

準備から実践販売、振り返りまでのプロセスを通じて、学生たちはビジネスの難しさを学ぶと同時に、環境問題など社会課題とその解決策に対する学びを一層深めた。

④千数百年の伝統文化・木造建築技術を 後世に繋ぐ宮大工集団「匠弘堂」へ 工房見学プログラム！

連携企業：有限会社匠弘堂



■実施時期

2024年12月14日

■参加者 合計：9名

立命館大学（1名）

龍谷大学（1名）

嵯峨美術大学（2名）

佛教大学（1名）

京都精華大学（1名）

京都橘大学（1名）

追手門学院大学（1名）

兵庫県立ものづくり大学校（1名）

■学生への課題

企業の魅力や課題を学生視点で発見し、未来の伝統産業について考えよ！



■概要

次世代を担う大学生が「未来の伝統産業の姿」について、千数百年続く伝統文化・木造建築技術を後世に繋ぐ職人の方々と語り合い、これからの日本の伝統をどう紡いでいくか、未来の伝統産業について共に考える機会として対話の場を設けた。

■プロジェクトの結果・学生の学び

日本の伝統建築を支える宮大工の仕事に触れ「木と向き合う技術と哲学」を学ぶことを目的に、有限会社匠弘堂を訪問した。企業担当者からは、宮大工の仕事や歴史、素材としての木の見方、現場での仕事の流れ、さらには現代における宮大工の役割について詳しく話をしていただいた。工房見学では、木材の選定方法や木目の見方、余った木材の活用方法など、単なる建築技術を超えた宮大工の思想にも触れる機会となった。さらに、鉋（かんな）を使って木を削る体験や、釘を使わずに木を組み合わせる継手の仕組みに触れることで、宮大工の高度な技術を身体で学ぶ時間となった。

学生からは「木を単なる材木ではなく、人に近い存在として捉える考え方が新鮮だった」「建築と絵画に共通点があると知り、伝統を残す仕事の奥深さを実感した」といった声が上がリ、建築の視点が大きく広がる学びの場となった。また「木の香りや手触りを直に感じながら作業することで、職人が素材と対話しながら仕事をしていることがわかった」「未来の建築を考えたとき、以前はドラえもんのような近未来的なイメージだったが、今はより自然と調和した景色が浮かぶようになった」といった意見もあり、宮大工の仕事が単なる建築行為ではなく、文化を継承する営みであることを実感する機会となった。

また、職人の方々との対話を通じて、職人の信念や素材に対する深い敬意や「目に見えない部分にこそ手を抜かない」「100年、200年先を見据えて仕事をする」という考え方に触れることができた。現代の効率優先の価値観とは異なる長期的な視点の重要性、そして「未来へ受け継ぐ」という使命感を学ぶ機会となった。実際に手を動かし、木の質感や香りに触れることで、宮大工の技術と哲学をより深く理解することができた。伝統を守りながらも、新たな挑戦を続ける宮大工の姿勢は、学生にとって自身の将来を考える上で大きな刺激となった。

匠弘堂訪問

▼レポート(note)▼



⑤ 「食の未来を創る技術に触れる。」 イシダ企業訪問プログラム

連携企業：株式会社イシダ



■実施時期

2025年1月17日

■参加者 合計：7名

立命館大学（1名）

京都産業大学（5名）

滋賀大学（1名）

■学生への課題

モノづくりの現場を体感し、「食」を支える技術やそのグローバルな挑戦を知り、対話を通して「働くこと」について考えよ！



■概要

「はかり知れない技術を、世界へ」を掲げ、食の安全・安心を支えるグローバル企業として食品加工や包装の分野で世界をリードする「株式会社イシダ」。そのモノづくり現場を体感し、「食」を支える技術やそのグローバルな挑戦や未来を創る技術に触れ、現場で働く方々と直接意見交換しながら「働くこと」について考えた。

■プロジェクトの結果・学生の学び

本プログラムでは「食品業界を支える精密機器の技術と挑戦」をテーマに、株式会社イシダを訪問した。訪問では、企業担当者から製品の技術や市場動向、そして今後の展望についての詳細な説明を受けるとともに、工場見学を通じてその製造現場を実際に見ることができた。イシダの技術は、私たちが普段目にする食品の包装や計量などに欠かせないものであり、その精密さがいかに重要であるかを学んだ。また、イシダが取り組んでいる自動化やAI技術、さらにグローバル市場への展開についても深く知ることができた。特に、フードロスの削減や環境保全といった社会的課題に対応するための努力は学生たちにも強い印象を与えた。

学生たちは、工場見学を通じて普段目にすることができない企業の努力や工夫、安心・安全を守るための高度な技術を理解し、何気ない日常生活を支える企業に感謝の念を抱いた。また、担当者の学生に寄り添う姿勢や心躍る説明から、イシダに対するイメージが大きく変わったという声も多かった。

就職活動に向けて、学生たちは働く姿勢や仕事に対する誇りを持つことの重要性を実感し、将来の自分に対する意識が高まった。ある学生は「イシダの皆さんのようにやりがいを感じられる仕事を見つけない」と述べ、自己のキャリアに対するビジョンを描く機会となった。初めて企業の職場（工場）を見学した学生たちは、仕事に対する熱意や誇りを持って仕事をしている社員の姿を見て「自分も誇りを持って仕事をしたい」と語っており、非常に刺激を受けていた。イシダの社員一人ひとりの人間性や温かさに触れ、働くことへの意欲が向上し、学生たちにとって大きな契機となった。

企業担当者の感想としては、「学生たちが積極的に技術や製品について深掘りし、意欲的に質問してくれたことが印象的だった。特に文系の学生が技術的な質問をしてくれたことに驚き、非常に新鮮だった」とのことだった。また「学生たちが今後どのような形で社会に貢献していくのか、その姿勢を見てとても励まされた」とのコメントもいただいた。

⑥ 伝統を尊び京都への想いを込めて作られた クラフトジン（季の美）の蒸溜所へ訪問！

連携企業：株式会社京都蒸溜所

THE KYOTO DISTILLERY

季
の
美

KI NO BI®
Kyoto Dry Gin

■実施時期

2025年2月7日

■参加者 合計：13名

京都教育大学（1名）

立命館大学（3名）

京都産業大学（4名）

京都大学（2名）

佛教大学（2名）

京都精華大学（1名）

■学生への課題

企業訪問を通してジンづくりの奥深さや京都ならではの魅力を体感せよ！



■概要

京都蒸溜所は、日本初のジン専門蒸溜所として、京都ならではの風土と素材を活かしたジン作りで、国内外から大きな注目を集めている。京都産の玉露、ゆず、山椒、ヒノキ、生姜、笹の葉、赤しそなどを使い、ボトルやラベルに至るまで“Made in Kyoto”にこだわる「季の美」を手掛けている。

今回のプロジェクトでは、この「季の美」の製造現場を訪問し、こだわりの製造工程や職人たちの想いに直接触れる貴重な機会を設けた。

■プロジェクトの結果・学生の学び

今回の訪問では、京都蒸溜所のクラフトジン製作における原材料の選定から蒸溜のプロセス、そして商品のブランディングに至るまで、丁寧な説明を受けることができた。

学生たちは蒸溜所の見学を通じて、クラフトジンの製造過程や、商品開発に込められた理念について学んだ。また、京都という土地が持つ文化や自然環境が、どのように製品の個性として反映されているのか、職人の手によって細かく調整されながら製造されていることについても理解を深めた。

参加した学生からは「普段何気なく飲んでいるお酒が、これほど細やかなプロセスを経て作られていることに驚いた」といった声が上がった。また、「地域の素材を活かしたモノづくりが、京都のブランド価値を高める要素になっていることを実感した」との感想もあり、単なる製造工程の見学にとどまらず、京都という地域と企業の関わりについても考える機会となった。

さらに、クラフトジンという比較的新しい市場において、どのようにブランドを確立し、価値を伝えていくのかについての話を聞き、マーケティングやブランディングの視点からも学びを得ることができた。

京都蒸溜所の担当者は「学生の皆さんが、原料や製法だけでなく、私たちが大切にしている『京都らしさ』にも関心を持ってくれたことが嬉しかった。今後も京都発のクラフトジンとして新しい価値を生み出していきたい。また、今回のような学びの場を通じて、若い世代にもものづくりの魅力を伝えていきたい」と今後の展望を語った。

今回の訪問を通じて、学生たちは製造業のリアルな現場に触れ、ものづくりの背景にあるストーリーや、地域とのつながりを学ぶ貴重な機会を得た。

⑦本がつなぐ 学生ブックフェアプロジェクト

連携企業：株式会社大垣書店、藤原製本株式会社



■実施時期

2025年2月～3月

■参加者 合計：10名

京都女子大学（1名）
龍谷大学（1名）
京都先端科学大学（1名）
同志社大学（1名）
京都大学（3名）
京都外国語大学（1名）
京都精華大学（1名）
京都芸術大学（1名）

■学生への課題

本業界のリアルを体感しながら、自分が「本当におすすめしたい！」と思う本を選び、その魅力を伝えるポップを作成して店頭での販売に挑戦せよ！



■概要

このプロジェクトでは、書店や製本会社を訪問し、本業界の「裏側」に触れるとともに、日々本に携わるプロの視点や仕事の流儀を学んだ。さらに、その学びを活かして、学生自身がブックフェアの企画提案に挑戦。プロからフィードバックを受けブラッシュアップを重ねた上で、実際に店頭での販売を行い、本を「選ぶ」楽しさ、本を「伝える」喜びを体感した。

■プロジェクトの結果・学生の学び

大垣書店と藤原製本の訪問を通じて、学生たちは本業界の価値や裏側を学び、それを実際の実習に活かした。大垣書店では「リアル書店は必要か？」という問いをきっかけに、書店の運営やその魅力を深く学び、デジタルでは得られない偶然の出会いや店員との会話の重要性を実感した。対話を通じて、未来の書店のあり方について自分の考えを整理し、学生たちはリアル書店が持つ独自の魅力とその未来に対する思いを共有し合った。

一方、藤原製本では、本が作られる工程や匠の技を直接見学し、製本業界の現状を知ることができた。デジタル化が進む中でも「紙の本だからこそ得られる体験」がいかに貴重であるかを感じ、また、製本工場で見た職人技や手作りの精緻さに驚き学生たちは本の持つ価値の重みを再認識した。

これらの学びを基に、学生たちは実際にブックフェアの企画提案に挑戦し、ポップの作成を行った。見学にて、紙の本の大切さを学んだことから、その重要性が伝わるような本の選定を行った。学生たちは「和紙を使ってポップを作成してはどうか？」というアイデアを出し、急遽、京都の上村紙より和紙を提供していただき、本の魅力を伝えるポップ作成に取り組んだ。実際に販売につながるという貴重な体験となった。実施後、担当者からは

「1枚1枚手作りされており、書店員が作るものとはまた違う、素晴らしい出来だった」と高く評価された。学生たちはポップ作りにおいて、限られたスペースで効果的に情報を伝える難しさを実感し、実際に書店で設置されたポップと比較し、次回に活かせる改善点を挙げた。

この経験を通じて、学生たちは本や紙製品に対する興味を一層深め、次回に向けてさらなる成長を目指していく意欲を抱き、「本の選び方」「魅力の伝え方」についての深い理解を得た。このプロジェクトでは、学生たちは本業界の未来を考え、実際にその一端を担う各セクターの重要性を実感することができた。

⑧映画・テレビの“あのシーン”を支える！ 高津商会 企業訪問プログラム

連携企業：株式会社高津商会



■実施時期

2025年3月5日

■参加者 合計：5名

立命館大学（1名）

京都女子大学（1名）

大谷大学（1名）

佛教大学（2名）

■学生への課題

実際に使われる小道具を見学し、現場で働く方々との対話を通して映像制作の魅力や仕事に対する熱い想いを体感せよ！



■概要

映画やテレビで目にする印象的なシーンの裏側を支えている「高津商会」。同社は、小道具のレンタルやスタジオセットの装飾を通じて、京阪地域のテレビ局・映画撮影所で制作されるドラマ・情報バラエティー・報道番組などに貢献している。

今回の訪問プログラムでは、実際に使われる小道具を見て、映像からだけではなかなか伝わらない小道具の魅力と工夫を感じた。また、現場で働く方々と直接お話しすることで、映像制作の魅力や仕事に対する熱い想いに触れられる貴重な機会となった。

■プロジェクトの結果・学生の学び

今回の高津商会の説明会と見学を通じて、映像制作の裏方で重要な役割を担う小道具の世界を深く理解することができた。高津商会は、創業100年を超える歴史を持つ小道具の専門企業であり、映画やテレビの現場で使用されるさまざまなアイテムを取り扱っている。特に、小道具や時代劇のセットに欠かせないアイテムの数々を見学することができ、普段は目にするのではない製作過程や工夫を知る貴重な機会となった。

学生たちは倉庫の見学を通じて、映像作品に使われる道具がどのように選ばれ、制作されるのかを体験し、道具が映像作品に与える影響の大きさに驚いた。例えば、刀身の製作過程や、映画に登場する小道具一つ一つがどれほど慎重に作られているかを実際に体験し、映像制作における細部へのこだわりが作品全体に与える力を実感した。

学生たちの感想では「普段何気なく目にしている小道具の重要性に気づけた」「制作過程を知ることで映像制作に対する興味が湧いた」「小道具を通じて、映像や演出がどれほど緻密に作られているかが分かった」といった声が上がった。

また、映像制作の裏方で働くスタッフが勉強しながら“リアル”を追求する姿勢にも感銘を受けた。学生たちは、映像制作の現場がいかに多くの人々の協力によって成り立っているかを知り、今後作品を見る際には、小道具やセットにも注目し、その背後にある努力や工夫を感じ取りたいと述べた。

企業担当者からは、「学生たちが現場の裏側に注目してくれたことが嬉しい」とのコメントをいただき、今後もイベントや展示を通じてさらに多くの人々にその魅力を伝えていきたいという意欲が感じられた。

⑨途上国から世界へ届ける、モノづくりの真実！ マザーハウス企業訪問プログラム

連携企業：株式会社マザーハウス

MOTHERHOUSE

■実施時期

2025年3月6日

■参加者 合計：9名

京都教育大学（1名）

京都女子大学（1名）

立命館大学（1名）

京都産業大学（1名）

同志社大学（2名）

京都大学（2名）

京都ノートルダム女子大学（1名）

■学生への課題

マザーハウスがどのように「途上国の力」を活かし、持続可能な形で社会貢献をしているのかを学び、ものづくりや社会貢献について理解せよ！



■概要

「途上国から世界に通用するブランドを作る」という理念のもと、マザーハウスはバングラデシュやネパールをはじめとする地域の魅力的な素材や職人技を活かした、品質の高いバッグやアクセサリーを製作している。

このプログラムでは、マザーハウスがどのようにして「途上国の力」を活かし、持続可能な形で社会貢献をしているのかを学んだ。現場で働く方々と直接お話しし、ものづくりや社会貢献について深く理解することができる貴重な機会となった。

■プロジェクトの結果・学生の学び

途上国から世界に通用するブランドを目指すマザーハウスを訪問し、学生は企業担当者からブランドの理念、現地の生産者との関係、商品開発プロセスについて学んだ。学生たちは「想いを形にする」ことの重要性を実感し、単なるビジネスではなく、社会課題解決を目指す姿勢に触れた。

対話セッションや店舗見学では、バングラデシュやネパールで生産されるバッグやジュエリーがどのように作られているかを学び、素材選びや職人技術がブランド価値にどう寄与しているのかを知った。特に、天然素材を活かしつつデザイン性と機能性を両立させる工夫に感銘を受けた。また、日本のデザイナーと現地職人の協働により品質向上を目指していることが紹介され、ものづくりの奥深さを理解する機会となった。

学生からは「ビジネスの視点から、生産者との関係を重視し共に成長する考え方に共感した」「製品の背景を知ることで、普段使う製品の見方が変わった」という意見が上がった。さらに「社会課題解決と経済活動を両立させる難しさを実感した」「将来どのように社会と関わるかを考える契機になった」といった意見もあり、社会課題とビジネスについて深く理解できた。

また、企業担当者との対話を通じて「挑戦し続ける大切さ」「失敗を恐れず行動する姿勢」の重要性を学び、ブランド創業時の困難や現地での試行錯誤に触れた。ビジネスと社会貢献を両立させるためには、長期的な視点が不可欠であることを実感した。

今回の訪問を通じて、単に製品を作るだけでなく「想いを届ける」というブランドの哲学を学び、マザーハウスが目指す「新しいものづくり」の形を深く理解することができた。社会課題に挑戦し続ける姿勢は、学生にとって自身の将来を考える上で貴重な示唆を与えるものであった。

⑩京都未来共創ゼミ ～京都の未来を創るサードプレイス～

■概要

京都未来共創ゼミは、京都で学ぶ大学生が学校や学年を超えて活動を共有する場として実施。月1回程度の活動を通じて、同世代の仲間たちとともに複数の企業と出会い、学びや実践を重ね、成長を実感できるプロジェクト。

■参加者 合計：9名

京都産業大学（1名）	佛教大学（2名）
龍谷大学（1名）	京都橘大学（1名）
京都大学（1名）	同志社女子（1名）
同志社大学（1名）	京都外国語大学（1名）

■活動目次

7月：【キックオフ】「3月・3年後にありたい姿について」

8月：【実践】まず自分たちの現在地を知る：短期集中課題解決

講演『榊田 隆之 氏講演「日本一コミュニケーション豊かな会社を目指して」』

課題提案「QUESTIONの新しいキャッチコピーを提案せよ！」

協力：QUESTION 館長 平野 氏、ASTANE 田中 成美 氏

9月：【インプット】チームで活動する上で必要なスキルなどを学ぶ

ABD（アクティブブックダイアログ）図書：話し合いの作法

10月：【フィールドワーク】京都で活躍する事業者や集まる場所へ足を運ぶ

京都産業大学町屋学びテラス、ツナグム

11月：【企業訪問】京都から世界を支えるモノづくり、地域企業の活動を学ぶ

菅原精機 訪問・座談会

12月：【座談会】ただ売るだけではなく、どう面白くできるか

Q's取締役 前原 祐作 氏「正直にお金を稼ぐこと」と「教養とは話せること」

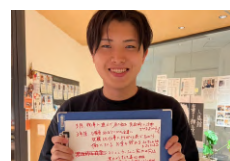
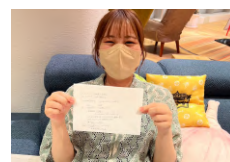
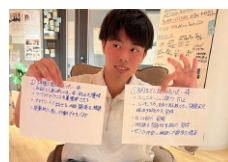
1月：【実践のための企画】自分たちは何をしたいか考えブラッシュアップ

2月：【実践】自分たちで企画から運営までを担う実践

3月：【振り返り】約9か月間自分たちがしてきた学びを振り返る

■【キックオフ】「3月・3年後にありたい姿について」(7月)

3月・3年後に自分たちがありたい姿、9カ月で学びたいことについて深めた。



■【実践】まず自分たちの現在地を知る：短期集中課題解決（8月）

普段会えないかっこいい大人から話を聞き「まずやってみる」実践を通じて、自分たちに足りないものを知り、学び続ける姿勢や探究心を磨いた。

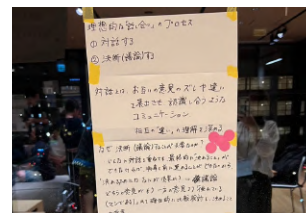


講演レポート



■【インプット】チームで活動する上で必要なスキルなどを学ぶ（9月）

ABD（超対話型読書法）を活用して「対話」の重要性を学び、より良いグループワークの進め方について理解を深めた。



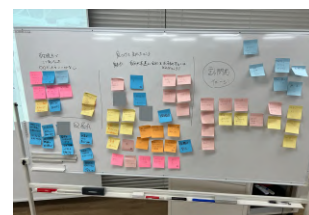
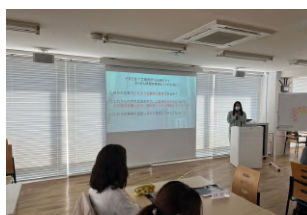
■【フィールドワーク】京都で活躍する事業者や集まる場所へ足を運ぶ（10月）

京都のまちのフィールドワークとして「京都産業大学 町家学びテラス 西陣」へ訪問。ツナグムのタナカ ユウヤ 氏に町家の歴史や西陣地域、地域連携について学びを深めた。



■【企業訪問】京都から世界を支えるモノづくり地域企業の活動を学ぶ（11月）

京都から世界を支え、私たちの生活に深く関わるものづくり企業・菅原精機を訪問。京都のものづくりの魅力や、現場で働く人々のリアルな姿について理解を深めた。



■【座談会】ただ売るだけではなく、どう面白くできるか（12月）

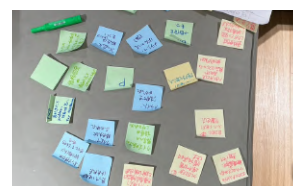
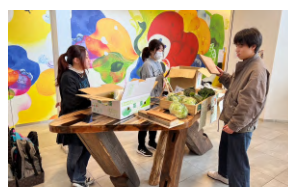
テーマは、正直にお金を稼ぐことと、教養とは話せること。既存のシステムをどう活用し面白くできるかなど、経験や考え方に触れ、自身の価値観を広げる時間を過ごした。



■【実践のための企画】自分たちは何をしたいか考えブラッシュアップ（1月）

■【実践】自分たちで企画から運営までを担う実践（2月）

「フードロスの現状や八百屋さんのリアルを伝えたい」という思いをもとに、チームで企画を進めたが、思うようにいかないことも多く、試行錯誤の連続。それでも「どうすればより良い販売ができるのか」を考え抜き、短い期間の中で改善を重ねた。



地域企業と連携した次代の京都の担い手育成事業 2024年度（令和6年度）年次報告書 2024年4月～2025年3月

主催：京都市

運営：特定非営利活動法人グローバル人材開発センター

発行：2025年 3月（令和7年）

編集：特定非営利活動法人グローバル人材開発センター

〒602-8061

京都市上京区甲斐守町97番地

西陣産業創造会館（旧西陣電話局）2階

Tel：075-411-5010

